

「書誌から見たワイルド受容研究——昭和戦前時代——」（日欧比較文化研究会研究発表会、平成 17 年 2 月）

日本におけるワイルド受容を書誌から明らかにする一連の研究より、昭和戦前時代を取り上げる。本間久雄、大塚保治、益田道三といった研究者が唯美主義からのアプローチをしたことが特徴である。さらに、高橋泰、矢野峰人、矢本貞幹といった研究者は、広い視野からワイルドを捉えようとした。矢野と矢本は批評家としてワイルドを強くとられ、アーノルド、ペイター、そしてワイルドへと「ありのままにとらえる」批評の姿勢の違いについて説明した。